



大井手堰水門



大井手堰



鶴市祭

information

本井路のは、山国川右岸の三口地点に井堰を作り沖代平野のかんがいをを行っている。保延元年(1135)、干ばつに苦しむ沖代平野のために大井手堰を造ろうと湯屋弾正をはじめとする七人の地頭が立ち上がった。七人の地主は、袴を投げ込んで一番早く沈んだ持ち主を「人柱」にする事に決めた。選ばれたのは湯屋弾正であった。責任感の強い弾正は、袴に石を詰めていた。

湯屋家に仕えていた古野源六兵の娘、鶴とその息子、市太郎は、主人弾正の代わりに「人柱」になると願い出て一度は退けられたが、遂にその請を許された。二人は、8月1日から15日まで15日間、室にこもって断食を行った後、御輿に乗って井手中ほどまで進み水底深く沈んでいった。この時、金色の山鳩が2羽現れて空高く1周して八幡様の森に飛び去ったと言う。いよいよ工事に着手。難工事を経て永遠に恵まれた土地となった。

八幡鶴市神社は、お鶴と市太郎を祭る意味でお鶴の鶴と市太郎の市をとっている。毎年8月末の土日に行われる「鶴市祭」は、御輿と車(花傘鉾)が太鼓・横笛・鉦で賑やかに用水路添い30kmを練り歩き、最終日には御輿が川の中に入り祭を盛り上げる。



お問い合わせ 中津市豊田町14-3
大井手堰土地改良区
TEL0979-22-0552
FAX0979-22-0698